

中宇治地域における学びの場について

中宇治地域市民協働推進拠点に係る基本ビジョンの策定に伴う、中宇治地域における学びの場の確保について報告いたします。

1. 中宇治地域市民協働推進拠点基本ビジョン

○中宇治地域市民協働推進拠点のテーマとコンセプト（P 5）

地域に暮らす様々な市民が気軽につどい（交流）、
一人ひとりが暮らしやすさを求めてつながり（連携）、
互いの価値観やライフスタイルを尊重・共有しながらまなび（学習）、
そして地域の課題解決に向けて地域に暮らすみんなでつむぎ（協働）、
魅力あるまちづくりにつなぐ**リビングルーム**のように居心地の良いコミュニティ
の拠点をつくります。

○整備場所（P 7）

菟道ふれあいセンター敷地

中宇治地域の市民協働推進拠点を整備

宇治公民館敷地

教育委員会などの意見も聞きながら、当面、観光需要に対応するための駐車場と
しての利用や、イベントなどに使えるオープンスペースとしての活用などにつ
いて検討

2. 教育委員の意見

○12月定例教育委員会（令和5年12月22日）

「中宇治地域市民協働推進拠点」が開館して、そこが社会教育を含む生涯にわたる
学びの場となるのであれば、中宇治の学びの場としてはよいのではないかと思う

3. 中宇治地域における学びの場について

○宇治公民館利用者の学びは、生涯学習センターや中央公民館で継続されている

○新たに「中宇治地域市民協働推進拠点」も学びの場となる

⇒宇治公民館については改めて教育委員の意見を伺う

(仮称)中宇治地域市民協働推進拠点について

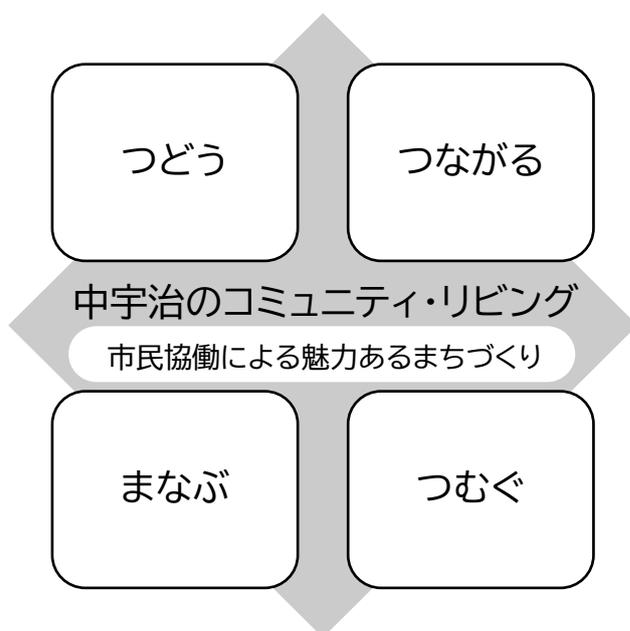
4. 中宇治地域市民協働推進拠点のテーマとコンセプト

拠点整備の基本的な考え方に基づき、公共施設整備に関する意識調査並びにまちづくりの拠点ワークショップ等の成果を踏まえて、次のテーマで市民協働推進拠点を整備します。

テーマ：中宇治のコミュニティ・リビング

～ 市民が主役の 交流・連携・学習・協働 がうまれる、まちなかのリビングスペース ～

地域に暮らす様々な市民が気軽につどい(交流)、
一人ひとりが暮らしやすさを求めてつながり(連携)、
互いの価値観やライフスタイルを尊重・共有しながらまなび(学習)、
そして地域の課題解決に向けて地域に暮らすみんなでつむぎ(協働)、
魅力あるまちづくりにつなぐリビングルームのように居心地の良いコミュニティの拠点をつくります。



1. つどい
誰もが気軽に立ち寄り、出会い、自由に居心地良く過ごせる環境
2. つながる
場所・時間・空間を共有できる環境
3. まなぶ
様々な学びの機会を活かし、多世代が自ら活動できる環境
4. つむぐ
年代に捉われることなく、相互に協力しながら、より良いまちを創る環境

5. 必要とする機能

既存の公共施設の概念やイメージに捉われることなく、多様な目的と用途で利用できる複合・多機能型の施設により、機能と空間の相乗効果や付加価値を創出し、「サービスの質の向上」と「地域の活性化」を目指します。

意識調査結果(Ⅱ-問3、問4)やワークショップで提案された「あったらいい活動」「しくみ」を踏まえて、新たな市民協働推進拠点には次の4つの機能を備える必要があると考えます。

必要とする機能	想定される施設※
出会いと自由な憩いの場	オープン交流スペース、芝生広場、テナント（カフェや物販）など
子育て支援の場	託児スペース、図書コーナー、広場、おむつ交換台など乳幼児に配慮した設備 など
多世代交流の場	オープン交流スペース、コミュニティカフェ、ホール など
趣味・遊び・学びの場	レンタルスペース、シェアキッチン、会議室、自習室、コワーキングスペース、防音設備 など

(※ 想定であり今後の検討により変わる可能性があります。)

6. 整備場所

地域のまちづくりの中核を担う新たな市民協働推進拠点は、テーマとして掲げる『中宇治のコミュニティ・リビング』とするため、誰もが気軽に立ち寄り、子どもから高齢の方まで世代を超えて様々な人々が出会い、つながることができる場所であることが必要であり、「日常的なアクセス」や「世代横断的な活動と交流」に適した立地であることが重要な要件となります。

意識調査やワークショップの結果を踏まえて、中宇治地域の地理的な中心に位置し、住宅地や商店街と近く、多くの人が足を運びやすい菟道ふれあいセンター敷地に、中宇治地域の市民協働推進拠点を整備します。なお、宇治公民館敷地については、教育委員会などの意見も聞きながら、当面、観光需要に対応するための駐車場としての利用や、イベントなどに使えるオープンスペースとしての活用などについて検討します。

○中宇治地域における公共施設整備に関する意識調査

「地域の拠点」、「市民参画・市民協働を推進する拠点」の姿として、オープンスペースを分け合いつつ、誰もが自由に利用できる施設を望む割合が最も多く、整備場所としては、「行きやすさ」や「利便性の良さ」が支持されました。

○市民協働でつくるまちづくりの拠点ワークショップ

事前勉強会におけるまちあるきで体感された主な意見として、宇治公民館敷地は道路の高低差があり徒歩・自転車でのアクセスが難しい、菟道ふれあいセンター敷地は周辺に民家や新しい店舗が多く、平地でアクセスしやすいなどが挙げられました。

2つの候補地それぞれは、宇治公民館敷地は景観の良さを活かした広く開かれた場所となるなどの意見が挙げられた一方、菟道ふれあいセンター敷地は誰もが気軽に立ち寄り過ごせる場所、子どもたちの遊び・学びの場所やまちのセンターとして多世代が集い繋ぐ場所となるなどの意見が挙げられました。

